

令和6年度 事業報告

法人事業概要

令和6年度は、年間スローガンを「八乙女新築工事の着工と多様化するニーズに対応したサービスの提供」とし、利用者の皆さんが安全で安心して暮らせるマーシ園をめざしました。

懸案の八乙女の移転新築事業は、多くの関係者のご理解とご支援により、無事9月に起工式を執り行うことができました。2月の降雪により工事の進捗が半月程度遅れましたが、現在、その遅れを取り戻すべく、急ピッチで工事が進められています。10月に竣工する予定ですが、スムーズに移転できるよう万全を期すとともに、入所定数減に伴う収入の減少等を見据え、各事業をコンパクトにして持続可能な運営体制を構築することが重要です。そのためにも職員一人ひとりがそれぞれの目標を持ち、力を合わせて福祉サービスの向上に取り組めます。

ここ数年間苦しめられた新型コロナウイルス感染症は、ウイルスの弱毒化に伴いかなり落ち着いてきましたが、反面、季節性インフルエンザに加えて、ノロウイルスによる食中毒が県内でまん延しました。マーシ園は、これからも感染症対策の手を緩めることなく、令和6年度新たに設置した「感染対策委員会」を適時に開催しながら、安心して生活できる施設づくりに努めます。また、近年国内外において、豪雨、落雷、豪雪、山火事などの自然災害が次々と発生しています。自然災害はいつどこで起こるかわからないということを肝に銘じ、利用者の「安全・安心」を守るため、業務継続計画に基づき初動体制を整え、訓練を重ねてまいります。

これまで5年間取り組んできた「ひきこもり等支援事業」は、出前講座や講演会の開催等の啓発事業をはじめ地道な支援活動により、相談件数や家庭訪問件数が着実に増加しております。今後も当法人の地域貢献事業の一環として、関係機関と連携を強化して積極的に取り組んでまいります。

法人財務状況

令和6年度の事業活動による収支は、いち早く障害福祉の報酬改定・制度改正に対応したことから、サービス活動収益は比較的順調でしたが、反面、光熱水費などの物価高騰や給与改善の影響による費用の増加もあり、サービス活動増減差額は前年比 677 万円減の 786 万円となりました。一方サービス活動外収益において、落雷被害保険金等の収入により、当期活動増減差額は前年比 555 万円増の 1,975 万円の黒字となりました。

就労支援事業収益いわゆる授産製品の売り上げは、高齢・障害・求職者雇用支援機構や社会就労センター全国大会の記念品を受注し木彫部門の好調に加え、なんと共同作業所の生産活動が順調に伸びたこと等により、前年を上回る 1,721 万円となりました。

施設整備の面では、9月の落雷により八乙女、木の香、ホーム風の谷において非常放送や火災通報装置など約 1,300 万円の被害でしたが、ほぼ満額の保険金が充てられました。また、年度末に八乙女移転新築に伴う用地造成2期工事の請負契約を市内業者と締結しております。

法人全体の財産の内訳は、資産の部で現金預金等の流動資産総額 4 億 64 万円、土地、建物、備品等の固定資産総額 16 億 3,744 万円、資産合計は 20 億 3,808 万円となりました。

負債の部は、流動負債総額 4 億 4,832 万円、固定負債総額 959 万円、負債合計 4 億 5,791 万円、差し引き純資産は 15 億 8,018 万円となり、前期比 805 万円の減となりました。